

平成 30 年度 第 1 回 SD 研修会報告 (FD・SD 合同)

内 容	全学財務説明会
日 時	平成 30 年 7 月 27 日 (金) 14:40~16:10
場 所	宮崎国際大学 1-201 教室
進 行	SD 担当 佐土原敦
出席者	Faculty 35 人、Staff 12 人 本部 2 人 詳細 (別紙の参加者名簿)
議 事 内 容	
<p>第 1 部 「文部科学省の動向について」 山下学長 第 2 部 「宮崎学園の財政状況について」 山下学長 第 3 部 「財務に関する研修会」 長利 本部経理課長 (教員は希望者のみ)</p> <p>学長が前期を終えての挨拶から始め、別添資料を基に第 1 部の説明を行った。</p> <p>第 1 部 新制度 (高等教育の無償化) と、私学経営者講座について</p> <p>高等教育の無償化の条件は年収 380 万円以下等があるが、どこの大学でも受け入れることはできない。受入大学の審査があり、ガイドラインは実務家教員がいる、外部理事がいる、財務状況基準がある。概念や基準が決定していないが、今秋に基準が決まる予定である。</p> <p>私学経営者講座での清家理事長 (私学振興・共済事業団) の話より、AI の発達で現在ある仕事が消えていき、人にしか出来ない仕事が残る。それは何か。ディズニーランドでの事例から、老夫婦がお子様ランチを注文したことに対して、マニュアル対応ではなく、何故そのような注文をしたのか疑問に思い、それを知る行動と対応は人にしかできない。このように、問題を発見し、理解し、確認し、解決していく過程は、MIC で長年行っているアクティブラーニングで培われます。MIC で良かったと思う学生が増えるようにしていきたい。</p> <p>第 2 部 宮崎学園の財政状況について</p> <p>主に資料 1 と資料 2 を元に、平成 29 年度に実施した工事や学生定員充足率について説明された。損益分岐点としては、平成 29 年度は学園全体として 57 人、宮崎国際大学として 33 人不足する状態だったが、平成 30 年度は前年プラス 114 人増となっている。しかし、大学の国庫補助金収入が前年より 4,599 万円減ったこと等で収支差額がマイナス 4,300 万となっている。人件費比率が昨年度 99.6% と 100% をきり、今年度も入学者が増加したので好転している。</p> <p>第 3 部 財務に関する研修</p> <p>主に資料 3・6・7 を元に説明があった。会社では、経常収支差額は経常的な収支になり重要であること。近年 3 カ年で 2 期赤字の状態であることから経営状態区分が B0 になりイエローゾーンの予備的段階にある。将来的には安定的な Aゾーンに移行する努力が必要である。</p>	